

スペイン語多読用教材としての児童書の利用 ーその難易度を考えるー

齋藤 華子

Resumen:

Los libros infantiles como material para la lectura extensiva en la enseñanza de español: un análisis de su nivel de dificultad

La lectura extensiva es una actividad notable en el aprendizaje de una lengua extranjera en Japón, donde no hay muchas oportunidades de practicarla. Además de la lectura intensiva, se les debería recomendar también a los estudiantes de español con el fin de que adquieran el hábito de la lectura adaptada a su nivel de competencia. En este artículo, reflexionamos sobre la lectura de libros para niños nativos por parte de aprendientes de español fuera del aula. Teniendo en cuenta las sugerencias de los estudios realizados en la enseñanza de inglés, comprobamos el nivel de dificultad lingüística de estos libros, analizando el número de palabras totales, las palabras desconocidas y los tiempos verbales que se usan en el texto. Al mismo tiempo, estudiamos el mejor uso que podemos darle a la literatura infantil como material para la lectura extensiva en español.

要 旨 :

日本の外国語教育において、インプットの不足を補うために「多読」が注目されている。大学初習外国語としてスペイン語を学ぶ学習者にも、深く細かく読む精読に加え、レベルにあった本を多く読むという活動を促したい。本稿では、学習者が授業外でスペイン語多読に取り組むための本として、スペイン語を母語とする子供向けの児童書の活用を考える。英語多読の方法やその教材を参考に、スペイン語児童書の難易度を語数や未知語の概数等により分析し、スペイン語多読学習教材としての児童書のより効果的な利用法を検討する。

キーワード :

スペイン語多読 スペイン語児童書 読みやすさ

1. はじめに

大半の学生が入学後に初めて学ぶことになるスペイン語のような大学初習外国語は、限られた授業時間内での学習に加え、自らその言語との接触機会を求めることが、学習成果の向上に大きく関わることになる。スペイン語を専攻言語として学ぶ場合でも、必修語学科目を数多く履修する間は、基礎能力を徹底的に養う環境に必然的に置かれるが、その期間を越えた後、各自の関心の領域でスペイン語の知識を活かし、さらなるスペイン語力のレベルアップを目指すには、自ら学んでいく姿勢が欠かせなくなる。

自主的な学習としては、「読む」という行為が一番取り組みやすいはずである。会話をする相手が簡単に見つからなくても、読もうという意識さえあれば「読む」ことは可能である。しかしその際、わからない単語をすべて辞書で調べ、日本語に置き換えながら読むだけでは量をこなすことはできない。また読むことを楽しめなければ、学習の継続は期待できないだろう。授業外で、自主的にスペイン語を読みたいと思う学習者を増やすためには、内容が楽しく、辞書に頼らなくても大筋がわかる、という読み物が見つけられれば理想的である。

本稿では、学習者が授業外で、スペイン語読書を楽しむための図書について考えてみたい。具体的には、やさしいスペイン語で書かれ、絵からもストーリーが想像でき、学習者自身が一冊読み切ることができると思える材料として、スペイン語を母語とする子供用の児童書が活用できるかどうかを検討する。

2. 英語教育における多読

2-1 英語多読の方法と教材

日常的に教室外で学習言語に触れる機会が少ない日本の外国語教育において、インプットの不足を補うために「多読」が注目を集めている。『英語教育用語辞典』（白畑他, 2009）の「**extensive reading**（多読）」の項には、「文の意味を読み取ることを中心目的にして大量に教材を読むこと。細かい文法事項や語彙項目などに注意を払うことは避けて、書かれていることの内容や大意をすばやくつかむことを重視して読む。」とある。言語形式にとらわれ過ぎず、内容を意識しながらテキストを大量に読む学習法であ

るが、英語教育における多読指導の必要性として、門田他(2010)は次の 3 点を挙げて説明している。

- ・読解力を伸ばすには多量のインプットが必要であり、多読はそのインプット量を増やす
- ・やさしい英文に多く触れることによって、単語認知力や統語解析力の自動化が促進され、読みの流暢さを高める
- ・わかるので楽しい、もっと読もうという動機を高める

さらにこの多読を積極的に英語学習に取り入れた活動として「100 万語多読」がある。辞書は引かない、わからないところは飛ばす、つまらなくなったらやめる、という 3 原則のもと、絵やイラストの入った非常にやさしい本から読み始めることが推奨されている。

辞書を使わなくてもわかるやさしい文章から読み始めることで読書量を増やし、読みの流暢さを高めて、テキストのレベルを徐々に上げていく多読活動においては、教材の選択が重要な鍵を握る。英語多読用教材としては、Leveled Readers (LR) (英語を母語とする児童を対象とした英語習得用段階別絵本)、Graded Readers (GR) (英語が母語でない英語学習者のために語彙・文法・構文を制限し、平易な英文で書かれたもの)、Children's Books (CB) (英語を母語とする主に小学生を対象とした児童書) 等があり (高瀬, 2010)、英語多読に関してはこうした教材の情報も充実している。特に SSS 英語学習法研究会が運営するウェブサイトの存在は大きい (<http://www.seg.co.jp/ss/>)。100 万語多読を普及するこのサイトには書評ページがあり、絵本や GR、大人向けのペーパーバックまで多数の多読用図書が紹介されている。GR にはそれぞれの出版社が、使用語彙や文の長さ、文法レベルなどの基準により各社独自のレベル設定をしているが、出版社により基準は異なり、また日本人学習者に必ずしも適しているとは限らない。そこで SSS 英語学習法研究会では、多読を実際に実施している人たちの意見で、多読用図書の「読みやすさレベル (YL)」を設定し公開している。この YL の基準は、使用される語彙のレベルと総語数、挿絵の割合、文字の大きさ、話の展開なども考慮されたものであり、日本人学習者のために「レベル 0」から「レベル 9」までの非常に細かいレベル設定が試みられている。使用語彙が基本語 300 語以内で、総語数 1500 語未満が

最も低い「レベル0」とされているが、その中には1ページに単語が数個程の本も含まれ、100万語多読では、誰もがこの一番やさしいレベルから読み始めることが勧められている。

2-2 英語多読の実践

酒井、神田(2005)には、高等学校、高等専門学校、大学の授業において実践されている英語の多読活動とその成果が多数紹介されている。英文を読むスピードが上がる、わからない単語の意味を予測できるようになる、自分のペースで読み進められる、読書量が増えるなどの効果とともに、英語が苦手な生徒にとっては、1冊を読破できたという大きな達成感を味わう機会となることがプラスの効果として報告されている。また高瀬(2010)も多読の一番の効果として、やる気を起こす、自信をつける、英語嫌いが減少するといった情意面での効果を挙げている。

一般的に英語を初めて本格的に学習し始める中学校での実践報告もある。小堀、幡山(2013)は、中学1年から2年にかけての7か月間、計18回の多読活動を実施し、英語授業での多読活動の効果的な導入方法を検討しているが、多読を試みた生徒からの好意的なコメントとして、

- ・理解できない部分もあったが、絵があったので内容を想像することができた
- ・内容が楽しかった
- ・絵がかわいかった
- ・前よりもたくさん読めるようになった
- ・少し難しい本も読めるようになった

等が挙げられている。英語学習において初期の段階にある中学生にとっても、挿絵のあるやさしい読み物は、絵やイラストがストーリーを理解する助けになることがわかる。また自分の力だけで最後まで読み切ることで、読む力の向上を体感でき、達成感につながるのだろう。一方、次のような否定的なコメントも紹介されている。

- ・読み通すことはできたが、わからないところがあった
- ・読めない単語があると、ときどきやる気をなくした
- ・自分が読めるレベルの本はすべて読んでしまい、もう読める本がない

わからない、難しいという思いは、その後の読書への意欲を削いでしまうことになる。初級段階で多読を導入するには、辞書を使わなくても読むのに支障を感じない、極めてやさしい教材を十分用意しておかなければならないといえる。

3. スペイン語の多読用教材を考える

英語多読の実践例を見ても、外国語の多読を効果的に実施するには教材選びが大変重要なポイントになることがわかる。スペイン語学習においても、楽しみのためのスペイン語読書を実践するには、読み切ることのできる分量で内容が面白く、スペイン語で本が読めたという自信を持つことができるような非常にやさしいレベルの本からスタートすることが望まれる。

英語多読教材においては前述のように、日本人学習者向けの細かいレベル分けがすでに試みられていて、その中には1ページに数語、数行といったレベルの本も存在する。またそうした情報が数多くあり、入手が可能である。スペイン語においても、スペインの出版社が発行している外国語としてのスペイン語学習者向けの読み物シリーズがあり、英語のGRと同様、スペイン語学習者向けとして文法や語彙が制限され、出版社ごとに学習歴或使用語彙等によるレベル分けがなされている。しかしながら、英語教材のような1ページに数語・数行といった読本は、初級レベルとされるものの中にも見当たらない。では英語のLRにあたる、スペイン語を母語とする子供向けの図書はどうか。スペイン語の多読用に利用できるだろうか。

スペイン語を母語とする児童向けの段階別児童書に“El Barco de Vapor”シリーズがある。スペインSM社発行の子供向け読み物シリーズで、1978年の刊行から長い間親しまれているものである。表紙の色により対象年齢が6~7歳、7~9歳、9~12歳、12~14歳の4段階に分けられており、6~7歳の児童対象の白レベル“Serie Blanca”は本学図書館に43冊揃っている(2014年3月現在)。もちろん学習者用の教材ではないので、使用される文法や語彙が制限されるということはない。しかしこのシリーズであれば分量の点で、学習者でも“読み終える”と感じられる程度の本を見つけることができ、またカラフルなイラストが内容理解の助けにもなるだろう。

GR と異なり、ネイティブ話者と同じ自然なスペイン語に触れられる点や完成された物語を味わう点でも、読了できればより高い達成感が得られるのではないだろうか。

しかし実際にこれらのスペイン語児童書がどの程度の語数で書かれていて、学習者にとって未知の語彙がどのくらい使用されているか、筆者が知る限りこれまで分析はなされていない。せっかくの図書館所蔵のスペイン語図書を大いに利用するよう学生に勧めるにも、それらがどの程度読みやすいのか、勧める側が知っておくべきだと考える。そこで本稿では、この“El Barco de Vapor”シリーズの Serie Blanca レベルの本がおおよそ何語で書かれているのか、また本学スペイン語スペイン文学科 2 年次生が辞書を使わずにこれらの 1 冊を読むことを想定した場合、どのくらいの数の未知語と遭遇することになるのかを確認してみることにした。

4. 児童書“El Barco de Vapor”シリーズ-Serie Blanca-の難易度の検討

4-1 調査方法

本学図書館に所蔵される“El Barco de Vapor”シリーズの Serie Blanca レベルから、まず総ページ数が 60 ページ未満のものを任意に 10 冊選んだ(表 1 参照)。その 10 冊それぞれの総語数¹と、使用されている動詞の時制を確認した。またスペイン語学習 2 年目の学生にとって未習の語彙がどの程度用いられているのかの見当をつけるため、今回は本学スペイン語スペイン文学科 1、2 年次生が語彙を覚えるために使用している『スペイン語語彙練習帳』² (以下、『語彙練習帳』)を基準の語彙リストとした。つまり、『語彙練習帳』に掲載されている語であれば 2 年次生は既知であるとみなし³、

1 本に出てくる単語すべてを数えたもの。冠詞や前置詞も出てくるたびにすべて一語一語数えた累計である。

2 GIDE 語彙研究班 (編) (2008) 『リスニング問題付スペイン語語彙練習帳ーj スペ単! ライトー』朝日出版社

3 本学スペイン語スペイン文学科 1、2 年次生の「文法」科目では、この『語彙練習帳』の中の語彙について、ほぼ毎週単語テストを実施している。ただし、単語テストの範囲は『語彙練習帳』収録の語彙すべてを網羅しているわけではなく、また当然ながら、この単語集以外からも語彙は習得される。またその語彙習得レベルに個人差があるのは言うまでもない。しかしながら、これまで確認されてこなかったスペイン語児童書の読みやすさ、または読みづらさの検討の第 1 段階として、この『語

分析することとした。

表 1 調査対象とした児童書

| | タイトル | ページ総数 ⁴ |
|------------------|--------------------------|--------------------|
| (1) ⁵ | Un extraño en el tejado | 59 |
| (2) | Un tanto para Plumbito | 57 |
| (3) | Un invento sobre ruedas | 39 |
| (4) | Un día de estos ... | 55 |
| (5) | Las sonrisas perdidas | 55 |
| (6) | El gato Borba | 43 |
| (7) | Agustina la payasa | 41 |
| (8) | ¿Quién quiere adoptarme? | 43 |
| (9) | Un viaje fantástico | 43 |
| (10) | Tú eres mi héroe | 43 |

4-2 調査結果

1) 総語数

今回調べた 10 冊では、総語数は 435 語から 1598 語の範囲にあった（表 2 参照）。英語多読で紹介される YL では、総語数 1500 語未満を「レベル 0」としているのので、総語数だけでいえばスペイン語児童書にも同レベルのものが見つかるといえる。

酒井、神田(2005)には、読者が順調に読めているかどうかのバロメータとして、読書速度についての指摘もある。そこでは 1 分間に 100 語から 150 語ならば適切だとされている。大学からの初習語で、初めてネイティブ話者と同じ本を読むことを想定した場合、仮に 1 分間に 100 語読めるとすると、総語数 1000 のものでも十数分あれば読み終わる計算になる。

彙練習帳』の語彙を基準として利用することにした。

⁴ 物語が終わる最終ページにあたるページ番号を記している。文字がなく絵のみのページも含まれる。

⁵ 総語数の多い順に通し番号を付けている。

表2 調査対象とした児童書の語数

| | タイトル | 総語数 | 未知語数 | 既知語数 | 既知語率 |
|------|--------------------------|------|------|------|-------|
| (1) | Un extraño en el tejado | 1598 | 71 | 1527 | 95.6% |
| (2) | Un tanto para Plumbito | 1378 | 79 | 1299 | 94.3% |
| (3) | Un invento sobre ruedas | 1011 | 86 | 925 | 91.5% |
| (4) | Un día de estos ... | 996 | 56 | 940 | 94.4% |
| (5) | Las sonrisas perdidas | 867 | 46 | 821 | 94.7% |
| (6) | El gato Borba | 793 | 48 | 745 | 93.9% |
| (7) | Agustina la payasa | 669 | 45 | 624 | 93.3% |
| (8) | ¿Quién quiere adoptarme? | 614 | 47 | 567 | 92.3% |
| (9) | Un viaje fantástico | 486 | 38 | 448 | 92.2% |
| (10) | Tú eres mi héroe | 435 | 32 | 403 | 92.6% |

2) 未知語の概数

Serie Blanca レベル 1 冊の分量だけを考えれば、例えば昼休み中に 1 冊読むということも可能な作品を探し出すことができそうである。ただ実際には、意味を知らない語に必ず遭遇しながら読むわけであり、たとえ短時間のうちに読み終えたとしても、辞書の助けなくストーリーが理解できるかどうかについての保証はない。未知語を推測しながら読むことを可能にするのは、テキストの 95%が理解できる読み物であると言われる(Nation, 2001)。つまりは未知語があまりに多い文章では、意味を推測することも難しいということになる。では Serie Blanca の場合、既知語の覆い率はおおよそどのくらいだろうか。“『語彙練習帳』に掲載されているスペイン語語彙の意味をすべて覚えた学習 2 年目の学生”が読むことを想定し、Serie Blanca の未知語・既知語の割合を調べてみた。

まず Serie Blanca の 10 冊について 1 冊ずつ、『語彙練習帳』のさくいん

に掲載されていない名詞・動詞・形容詞・副詞⁶をリストアップしていった。その際、-mente 副詞については、元となる形容詞が収録されていれば意味理解が可能と考え、既習であるとみなした。一方、縮小辞等の接辞が付いた派生語 (bajito, pedacito 等) や略語 (peli, cole 等) については、2 年次では必ずしもその派生・省略の知識が十分あるとは限らないと推測し、未習の語として数えていった。

結果、本調査に利用した 10 冊では、既知語の覆い率は 91.5%から 95.6%であった (表 2 参照)。辞書なしで未知語を推測しながら読むことができるのはテキストの 95%の理解が必要であるという主張を基準とすれば、2 年次生が辞書を用いることなくこの *Serie Blanca* を読む場合、流暢に読み進めるには少し難しいレベルだということになる。

3) 用いられる動詞時制

スペイン語の場合、一つの主述構造をなす単文であっても、主語が省略されることで、述部だけからなる文が頻繁に登場する。述部の核の動詞は主語の人称と数によって語形を変える。つまり、動詞の活用を身につけなければ主語が省略されている場合、誰が (何が) どうする (どうした) のかを、瞬時に理解することができない。

GR と異なり児童書は、子供向けであっても動詞の時制は制限なく使用されていると予測したが、今回調べた 10 冊についても、直説法の 9 時制、接続法の 4 時制のうち、どの本にも登場しないという時制はなかった (表 3 参照)。総語数に関わらず、直説法現在、点過去、線過去の 3 つは 10 冊すべてに用いられており、物語を読む以上、過去時制の知識は避けられないことがわかる。また何が起きたか、何をしていたか等、過去の出来事・状況を物語るに伴い、接続法においてもそれを必要とする文では過去時制が出現することになる。学習を始めて 1 年目に、すべての動詞時制を扱うということには賛否両論あるが、できるだけ早い段階で、たとえそれが子供向けの図書であっても、自然なスペイン語で書かれた書物に触れる体験

⁶ 今回の調査では、本の内容理解に欠かせない要素である内容語の名詞、動詞、形容詞、副詞に着目し、これらの四品詞の語彙のうち『語彙練習帳』に収録されていない語を「未知語」とみなすことにした。

をさせるには、全時制を1年目に学ぶ意義はやはりあるのではないかと感じさせる結果である。動詞活用を定着させるためには、実際に動詞を使い、読み、聞きとりながら慣れていく必要があるが、多読という活動もその有効な方法の1つではないだろうか。

また児童書という性質から、子供同士、または親子間のセリフに、命令文が多用されるのではないかと予測し、動詞時制の確認に加え、*tú*, *vosotros* に対する肯定命令と、接続法を用いた命令の登場をチェックした。スペイン語では誰に対する命令か、また肯定命令・否定命令かによって、動詞の形が変化するため、理解に時間がかかる学生も多い。命令文が多用されるテキストは、学習者にとって読みづらいのではないかと危惧しているが、今回の10冊の傾向を見ると、子供向けの読み物であっても、命令文の使用が際立って児童書を読みにくくするとは言えないようである。

表 3 調査対象とした児童書に用いられる動詞時制

| 時制 本 | 直説法 | | | | | | | | |
|---------|-----|-----|-----|----|------|------|------|------|--------|
| | 現在 | 点過去 | 線過去 | 未来 | 過去未来 | 現在完了 | 過去完了 | 未来完了 | 過去未来完了 |
| (1) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| (2) | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | |
| (3) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| (4) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| (5) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| (6) | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| (7) | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| (8) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | |
| (9) | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | |
| (10) | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| 冊数 | 10 | 10 | 10 | 7 | 6 | 7 | 8 | 1 | 1 |

| 時制 本 | 接続法 | | | | tú, vosotros に対する 肯定命令 | 接続法を 用いた 命令 |
|---------|-----|----|------|------|------------------------------|-------------------|
| | 現在 | 過去 | 現在完了 | 過去完了 | | |
| (1) | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| (2) | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| (3) | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| (4) | | ○ | | | | ○ |
| (5) | | ○ | | | | |
| (6) | ○ | | ○ | | ○ | ○ |
| (7) | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| (8) | | | | | | ○ |
| (9) | | ○ | | | | |
| (10) | ○ | ○ | | | | |
| 冊数 | 6 | 8 | 1 | 2 | 5 | 7 |

5. 児童書の効果的な活用に向けて

深く細かく読む精読に加え、自分のレベルにあった本を選び、辞書に頼らず多く読むという活動も、語学力向上に大きく貢献すると考える。スペイン語児童書を任意に 10 冊選び、総語数、既知語の覆い率、使用される動詞時制を確認した結果、語数の上では多読学習が可能なレベルの児童書が見つけられることがわかった。ただし、読者が学んだ文法事項を考慮した教材というわけではなく、また学習 2 年目を仮定しても未習の語彙に遭遇することになる。自主的なスペイン語読書のため、児童書をより効果的に活用するには、なんらかの工夫をすることが求められるだろう。完全に辞書を使うことなく一人で読むにはまだ少し困難と思われる教材の場合、どのような補助的な支援が考えられるだろうか。

・あらすじを日本語で紹介する

Serie Blanca の場合、裏表紙に数行のスペイン語であらすじが掲載されている。ポイントを簡潔に示しているとはいえ、抽象的な表現となることもあり、必ずしもあらすじだからといって学習者が理解できるとは限らない。また本のタイトルからストーリーを想像するということもなくはないが、今回の 10 冊で言えば“*El gato Borba*” (Borba がネコの名前だとわかる場合)、または“*Un viaje fantástico*”、“*Tú eres mi héroe*”であれば、前者は旅(*viaje*)の話、後者は表紙の絵を見てもヒーロー(*héroe*)を夢見る男の子の話だろうと想像できるかもしれないが、その他についてはタイトルの単語の意味がわからない場合も多そうである。“*Un día de estos*”は、学習開始後すぐに覚える語から成るが、*un día de estos* という表現を知っている学生は少ないと予想され、またこのタイトルからストーリーを予想することも難しい。

題名と裏表紙の情報だけを頼りに、学生自身に本の選択をゆだねるよりも、登場人物と話の展開だけでもあらかじめ日本語で読めるようにしておくことができれば、読んでみたい内容かどうか、本を選ぶ際の情報として、また読み進める上での内容理解にも有益であろう。

- ・語彙の注釈を入れる

テキストの 95% の理解に達する程度、また自然な読みを中断しない程度に、語彙の注釈を入れるという方法が考えられる。門田、池村(2006)には効果的な注釈の入れ方に関して、初級学習者には母語による注釈を与えることで語彙の保持率が向上する、文字だけでなく絵と母語の訳による注釈が語彙保持に有効である等、各種の研究結果が紹介されている。また、田中、田畑(2002)は、ドイツ語の多読教材としてドイツ語で書かれた実文書を利用しているが、学習者が読む際障害となるような単語や成句表現に、読解を補助する情報を埋め込んだ読解情報つき文書を作成している。Web 上でこの文書を開き、読解情報が埋め込まれている色つきの表現にマウスを合わせると、サブウィンドウが開いて読解情報が表示されるシステムで、読みを中断することなく読み進めることができる仕組みであると言える。

このドイツ語教材例のように、Web 上の教材を用意することまではできないとしても、読むリズムを止めてしまう辞書を引くという行為に代わる、読書をより楽しむための注釈の工夫を考えてみたい。

6. おわりに

本稿では、本学図書館にあるスペイン語の児童書“El Barco de Vapor”シリーズの Serie Blanca レベルの本が、スペイン語学習 2 年目からの、いわゆる多読教材に利用できるかどうかを検討した。無作為に選んだ 10 冊を調査材料としたが、今後、図書館所蔵の残りの Serie Blanca レベルの図書にも目を通し、さらに分析を進めたい。その際、より詳細な未知語・既知語率、用いられる語彙や文の種類、動詞の時制、語彙や表現の繰り返しの出現、挿絵から得られるヒント等も考慮に入れながら、スペイン語児童書の読みやすさレベルの設定を目指したい。同時に、あらすじや注釈の利用を工夫・準備し、スペイン語学習者が図書館所蔵の児童書を楽しむ環境を整えていければと思う。

ただし、江澤(2011, 2013)の報告を読んでも、学生が教室外で自主的な読書に取り組むには、環境を用意するだけでは不十分であることがわかる⁷。

⁷愛知県立大学では図書館の一室でスペイン語多読活動が開始されているが、スペイン語学習において、スペイン語多読に関する考察や実践の報告は、筆者の調べたところでは江澤(2011, 2013)のみである。

本稿では、まずはスペイン語多読用教材としての児童書の難易度を確認することを第一の目的としたが、大学での効果的なスペイン語多読活動の実施や多読指導については、機会を改めて検討することとしたい。

参考文献

- 江澤照美(2011)「外国語読解能力向上のための読書教育ースペイン語多読活動の試みー」『ことばの世界』3, 45-58.
- 江澤照美(2013)「スペイン語多読活動」『ことばの世界』5, 179-180.
- GIDE 語彙研究班(編)(2008)『リスニング問題付スペイン語語彙練習帳ーiスペ単! ライトー』朝日出版社
- 門田修平・池村大一郎(編)(2006)『英語語彙指導ハンドブック』大修館書店
- 門田修平・野呂忠司・氏木道人(編著)(2010)『英語リーディング指導ハンドブック』大修館書店
- 小堀伸治・幡山秀明(2013)「英語教育と文学的教材[19]ー中学校英語授業への多読活動の効果的導入方法ー」『宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要』第36号, 127-132.
- Nation, I. S. P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 酒井邦秀・神田みなみ(編著)(2005)『教室で読む英語 100 万語ー多読授業のすすめ』大修館書店
- 白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則(2009)『改訂版 英語教育用語辞典』大修館書店
- 高瀬敦子(2010)『英語多読・多聴指導マニュアル』大修館書店
- 田中省作・田畑義之(2002)「Web を活用したドイツ語多読支援環境とその構築」『電子情報通信学会技術研究報告』102(139), 55-60.

<調査対象とした児童書>

- Guerrero, A. (2010). *Un extraño en el tejado*, (Colección El Barco de Vapor: Serie blanca: 128), Ediciones SM.
- Neuschäfer-Carlón, M. (2009). *Un tanto para Plumbito*, (Colección El Barco de

Vapor: Serie blanca: 126), Ediciones SM.

Morales Arance, I. (2009). *Un invento sobre ruedas*, (Colección El Barco de Vapor: Serie blanca: 126), Ediciones SM.

Machado, A. M. (2008). *Un día de estos...*, (Colección El Barco de Vapor: Serie blanca: 122), Ediciones SM.

Oro, B. (2005). *Las sonrisas perdidas*, (Colección El Barco de Vapor: Serie blanca: 110), Ediciones SM.

Rocha, R. (1992). *El gato Borba*, 5.ed., (Colección El Barco de Vapor: Serie blanca: 24), Ediciones SM.

Preussler, O. (1993). *Agustina la payasa*, 4.ed., (Colección El Barco de Vapor: Serie blanca: 32), Ediciones SM.

Casalderrey, F. (2008). *¿Quién quiere adoptarme?*, 4.ed., (Colección El Barco de Vapor: Serie blanca: 111), Ediciones SM.

Joma. (1992). *Un viaje fantástico*, 2.ed., (Colección El Barco de Vapor: Serie blanca: 39), Ediciones SM.

Chandro, J. C. (2009). *Tú eres mi héroe*, (Colección El Barco de Vapor: Serie blanca: 124), Ediciones SM.